

モモの整枝・せん定

県北農林事務所伊達農業普及所
JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会

1. 基本樹形

本県のモモの基本樹形は、2本の主枝と各主枝に2本ずつ亜主枝を配置し、樹高4m以内、樹幅7m程度とする開心自然形です(図1)。

この樹形は受光態勢と作業性のバランスが良いのが特徴ですが、樹齢が進むにつれて骨格枝先端の下垂による樹勢の衰弱が発生します。また、結果部位が先端に移行しやすく、高所作業が多くなるなどの問題が発生するため、樹勢の維持と結果枝の確保を目標に枝の更新や育成を進めましょう。なお、管内には低樹高・大玉生産の「大草流」や早期多収の「大藤流」といった開張形が普及しています。

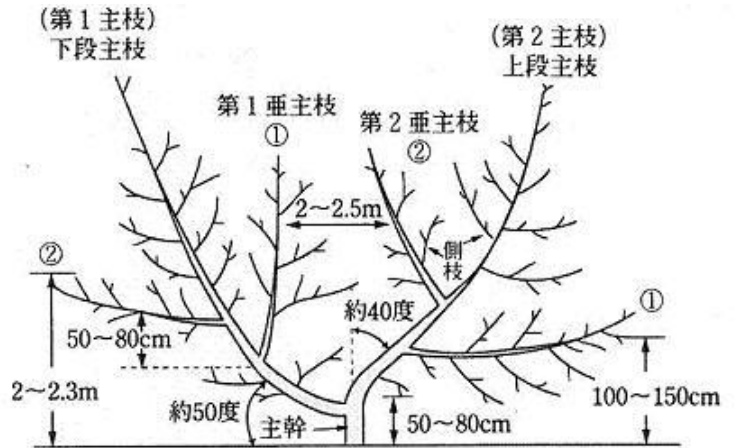


図1 開心自然形

※樹高を4m以内(6~7尺脚立の天板に登らない程度の高さ)に抑えましょう!

2. 整枝・せん定のポイント

(1) 日当たりを良くする

隣接樹との主枝先端の間隔を最低1m確保して日当たりを良くする。

(2) 主枝・亜主枝のバランスを保つ

ア 亜主枝は主枝の赤道面から発生した枝を使用する。

イ 主枝・亜主枝などの骨格枝を衰弱させないように注意し、主枝・亜主枝の先端が下垂した場合は、強い枝まで切り戻す。

(3) 適切に側枝を配置する(図2, 3)

ア 結果部位が骨格枝から遠ざからないよう側枝はコンパクトに維持する。

イ 大型の側枝や古い側枝は、間引きや切り戻しを積極的に実施して結果部位を若返らせる。

ウ 下垂して弱った側枝や老化した側枝の果実は、玉張り、着色ともに悪くなるので積極的に更新する。

(4) 樹勢に応じたせん定を実施する(図5)

ア 樹勢が強い場合は間引きせん定を主体に行い、残す短果枝の割合を多くする。

イ 樹勢が弱い場合は切り戻しせん定を主体に行い、残す長果枝の割合を多くする。

ウ 樹勢が適度な場合は間引きせん定と切り戻しせん定をバランスよく実施する。

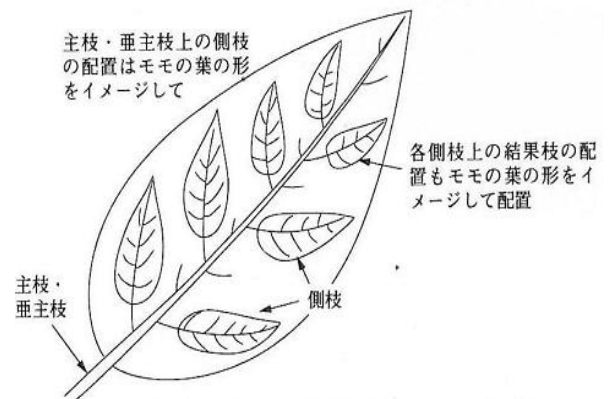


図2 側枝の配置

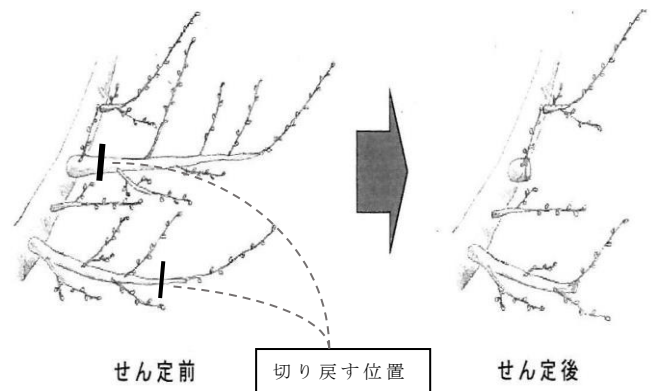


図3 側枝の切り戻し

(5) 樹勢を維持する

ア 樹勢が低下した樹では、骨格枝背面から発生した枝を積極的に配置することにより、先端までの樹液の流動を促す。なお、背面に配置する枝は、骨格枝先端より低い位置の枝を使用する。

イ 樹勢が低下しないよう、側枝はできるだけ主枝・亜主枝の赤道より上（斜め上）から発生した枝を使用する（図4）。

ウ 骨格枝の日焼けを防止するため、背面から発生した枝を小さく維持して配置する（図6）。

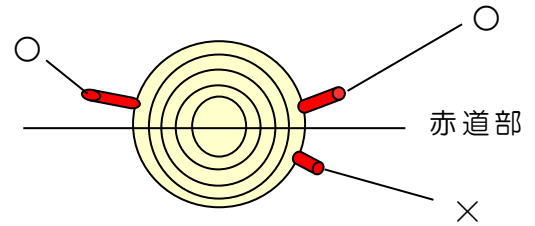


図4 側枝を出す位置

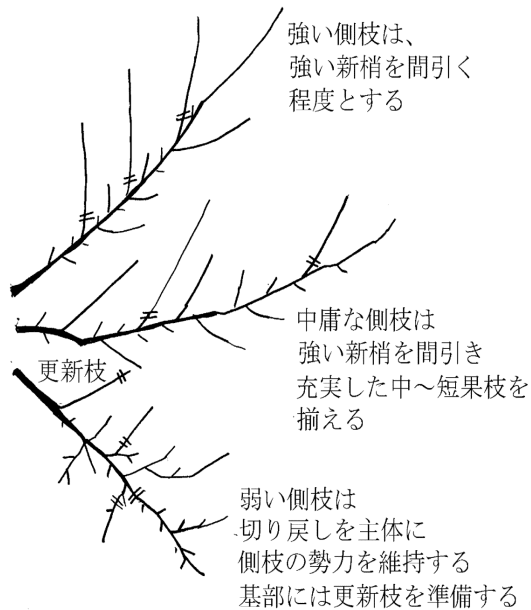


図5 側枝の強弱とせん定

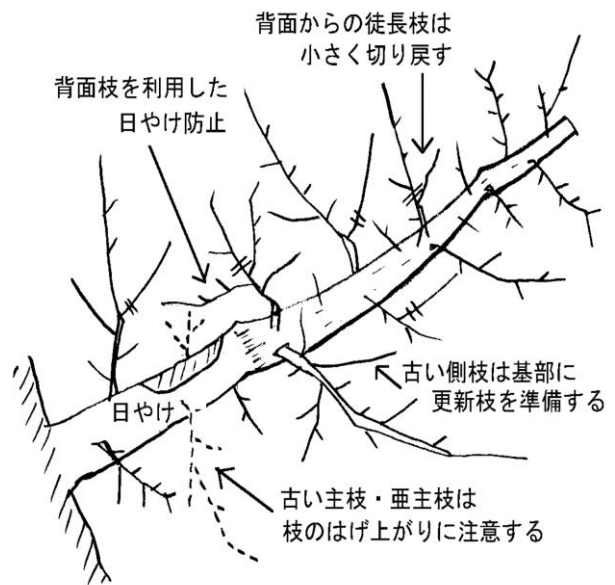


図6 主枝上の側枝のせん定

(6) 極短果枝の整理

摘らい・摘果の労力を削減するために、側枝下側の極短果枝（5cm以下；花束状短果枝）はせん除する。

(7) 品種別の優良な結果枝の目安

はつひめ
日川白鳳
暁 星
あかつき

→ 20~25cm

太い赤味のある花芽の充実した枝で、水平よりやや立ったもの。さらに、モモを着果させたとき水平になる枝。

川中島白桃

→ 10~15cm

〔結果枝は角度が水平のものを選ぶ。〕

* 農作業事故に注意してせん定作業を進めましょう。

- 天板に乗らない！
- 昇降時に物を持たない！
- 脚立作業の基本は三点支持！